

平成30年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡工業高等学校(全日制)

教育目標	1 豊かな教養と工業に関する知識と技術を修め、創造性に富んだ人間の育成。 2 自ら深く考え正しく判断する力と他を思いやる心をもった感性豊かな人間の育成。 3 健全な身体とねばり強い実践力を培い、心身共にたくましい人間の育成。	重点目標	1 確かな学力の育成と授業の充実 ー社会を生きぬく基盤となる学力の育成ー 2 心身の健康と生徒指導の充実 ー豊かな心と健やかな体の育成ー 3 高い目標を実現できるキャリア教育の充実 ー変化に対応し、社会で自立できる力の育成ー 4 工業教育の活性化と学校活力の創出 ー学校と地域の協働によえう人づくりー 5 地域に根ざした魅力ある元気な学校 ー郷土に誇りを持ち、地域とつながる生徒の育成ー
------	--	------	---

達成度	A : 達成	B : 概ね達成	C : やや不十分	D : 不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

評価項目	自己評価(年間)				学校関係者評価		総括
	具体的方策と指導・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	達成度	次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等		
1 授業の充実と確かな学力の育成 学力の向上と学習指導の充実	(1)学習習慣の確立と探究的な学習の展開による確かな学力の育成を図る。 (2)知識・技能の活用による探求心や表現力を育む授業の展開を行う。 (3)高度な資格や検定等の取得を目指した高い専門性を持った生徒の育成を目指す。	(1)出席率は目標である99.5%を概ね達成できた。 (2)家庭学習2時間以上を目標にしたがテスト前は概ね達成できたが普段は達成できなかった。 (3)授業満足度の目標80%を達成できた。 (4)欠点保有者を0人とすることはできなかった。 (5)年間図書貸出読書数3.7冊/人(昨年4.6冊) (6)教科指導法について職員研修会を開催し、研究授業で実践した。	B	・特別な支援を要する生徒や進路目標等、生徒の要望に応える校内組織の在り方を検討する必要がある。 ・生徒の学習習慣を確立する方策を検討する必要がある。	・今後とも、工夫した授業、わかりやすい授業に力を入れていきたい。 ・様々な取組みから学校側の努力が感じられる。 ・生徒の学習習慣の確立に向け、教員の意見交換を大切にしてもらいたい。 評価B	・地域拠点校としての特色と魅力をさらに発信できるように努力していきます。 ・地域に根ざし元気な学校、郷土に誇りを持ち地域とつながる生徒の育成に心掛けて実践します。 ・確かな学力に基づいたキャリア教育の視点で探求心と向上心を持った生徒育成に取り組みます。	
2 心身の健康と生徒指導の充実	(1)自他の尊厳を大切にし、社会の一員としての規範意識やマナーの育成を図る。 (2)豊かな人間関係を育む学校生活と交通安全・情報等に関するモラル教育の充実を図る。 (3)家庭や地域と連携・協働した教育活動による生徒指導の充実を図る。 (4)課題を抱える生徒に対する支援の充実を図る。	(1)いじめアンケート2回実施し、迅速かつ適切に対応した。 (2)自転車事故が13件と多かった。(昨年14件) (3)部活動加入率は目標の90%以上を概ね達成した。 (4)PTA総会を2回実施して出席率60%目標にしたが、69.8%(昨年66.4%)を達成できた。 (5)学年PTA・学級PTA・地区PTA全実施できた。 (6)機器使用のルールの徹底と情報モラルのさらなる啓発が必要である。 (7)学年団部や当該学科等との情報交換やスカールカウセーの活用など組織的に生徒の支援にあたった。	B	・自転車通学について地域の一員としての自覚及びマナーの向上を目指す指導を強化する。 ・いじめは絶対許さない校風づくりと完全防止を徹底する。 ・全職員が互いに連携し、共通認識をもって丁寧な生徒指導を行う。 ・スマートフォンやネット活用に対する情報機器等活用の指導を徹底する。	・学校生活全般にわたり計画的にきめ細やかな生徒指導がされている。 ・生徒アンケートをふまえ、エアコンの設置等改善点の実行を望む。 ・生徒一人ひとりに対応した指導がなされている。 評価B	・家庭学習の習慣化の点で不足しており継続して指導します。 ・社会で自立できる社会性を身につけ、いじめの根絶や交通安全意識の向上に今後も取り組みます。 ・元気で豊かな心と健やかな体をつくり、工業教育の充実と学校活力の創出に取り組みます。	
3 高い目標を実現できるキャリア教育の充実 キャリア教育の推進	(1)将来の在り方生き方を探求し、時代の変化に対応できる実践的な技術者の育成を目指す。 (2)コミュニケーション力や自己表現力等の求められる人間力の育成を図る。 (3)高い進路目標を持ち、地域の未来の発展に寄与できる進路指導の実現。	(1)企業就職希望146名中県内81名県外64名100%公務員希望8名中3名が内定した。 (2)地元就職率は60%程度であり、65%の目標に届かなかった。(H29は63%、H28は58%) (3)全クラス三者面談を年1回以上実施できた。 (4)第一希望100%合格は達成できなかったが、難関私大や国公立大学へ7名が合格した。 (5)国家技能検定電子機器組立2級1名、電気工事士28名、基本情報技術者1名、ITパスポート9名、建築施工技術者2名合格。	B	・進路ニュースや進路状況、進路のしおり等による情報発信において一層の充実と更新を図る。 ・地元就職に関する生徒への情報提供の充実を図る。	・多様な進路希望に対するきめ細やかなサポート、指導、キャリア教育が行われている。夢と高い目標を実現できる、一層の対応をお願いしたい。 ・各種資格取得数も増え、教育の充実が見えてきている。 ・3年間を見通した進路ガイダンスは良いと思う。 評価A	・各種大会で全国で優勝できる生徒を育成します。	
4 地域に根ざした魅力ある元気な学校 地域連携と魅力ある元気な学校	(1)地域や産業界、上級学校等との連携による工業教育の活性化を図る。 (2)小・中学校への魅力発信と大学等との連携による工業教育の充実を図る。 (3)全国で活躍できる部活動やものづくり活動の育成と支援を図る。 (4)ホームページやパブリシティ等による積極的は情報の発信を図る。	(1)郷土愛醸成のモデル校に指定され新聞活用研究を年間通して取り組んだ。また、山形大学工学部と高大連携・接続協定により生徒の研究体験や古川英光教授の記念講演を実施できた。 (2)山形大学国際事業化研究センターと高大連携を締結し本県の未来を担う起業家育成プログラムを始動した。 (3)地域に工業技術を生かす研究活動とPR活動を積極的に行った。課題研究発表会では荘銀タクト鶴岡で開催しマスコミから大きく取り上げられた。ものづくり展示会は公開講座も実施し大好評を得た。 (4)中学生体験入学会の満足度90%を達成した。 (5)HPは昨年以上の頻度で更新した。	A	・生徒の多様なニーズに対応できるよう、高大連携や企業との連携をさらに強化し、地域の力を活用した教育活動の実践を推進する。 ・運動部、文化部の活発な活動により、拠点校として維持・発展していく。 ・HPにおいて、各部のブログやプレスリリース等、最新の情報を発信できるように努める。	・大学における最先端研修やものづくり展示会をはじめ、各種行事等に積極的に参加し、活力ある学校という印象を与えている。また、鶴岡ならではの工業教育を大事に育てられていることが伺える。 ・新たな取組みに積極的に「挑戦しようとする学校」、「魅力ある学校づくり」ができています。 ・交流、ボランティア活動を展開していただくことを期待する。 評価A		

自己評価及び学校関係者評価の改善点等	・工業高校の特徴であるものづくり教育をさらに発展・充実したものにして将来の進路実現に結びつけられるよう、職員一丸となって取り組む。 ・改善の要するところ、すでに達成できていて更に進展させる方策について全職員で共有し検討していく。
--------------------	---